


中日友好新聞

日中友好協会
岡山支部
〒708-0034
岡山市北区下伊福
西町1-59 民生会館1F
TEL: FAX: 0861258-8408

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8031
倉敷市福成町東32461-45
TEL: FAX: 0861411-7808

発行所
日本中国友好協会
〒111-0953
東京都中央区浅草橋2-2-3
浅草橋555番
電話 03(5330)3140(FU)
FAX 03(5330)2141
http://www.jcfk.org.jp
E-mail: jcfk@jcfk.org.jp
発刊 00119-1-21178

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.jinaa.net
メールアドレス
rizhongyouhaoxihe@yahoocorp.jp



岡山市立上南公民館主催歴史講座「中国残留孤児と基本的人権」 「樹高千丈 落葉帰根」 深刻な老後と介護問題

岡山市立上南公民館長 岡崎秀穂

故郷を離れて暮らしていても、いずれ年老いた時には生まれ育った故郷に帰り、次世代に自分が それまで学んだことを伝える。講演のレジュメに書かれた「樹高千丈 落葉帰根」という中国のことわざの意味だそう。

今回の講演会は、日中友好協会の小林さんの解説を入れながら、高杉さんの語りで進んだ。高杉さんは、満蒙開拓団として満州に渡った父と母の間に生まれた。父は関東軍に忠告され、母と弟は 難民収容所で亡くなり、敗戦で子供のいない養父母のもとに三歳



で預けられた。十五歳で養父が亡くなり、戦時死亡宣告制度で、孤児は死亡扱いされ、帰国の道が閉ざされた。専門学校を卒業して 就職。二十歳で中国籍を取得し、二十二歳で結婚。四十二歳で第三次訪日調査団に参加し、父と再会。四十七歳で家族五人永住帰国。帰国まで国交回復から実に十六年の年月を要した。

言葉の壁や、仕事の苦勞に耐える覚悟をしてまで帰国の道を選んだのは、祖国に対する抑えられない思いで、まさに「落葉帰根」であった。そんな岡山での生活中で、中国 残留孤児「国家賠償訴訟岡山原告団の団長」として、中国帰国者の環境改善に取り組んだ。多くの帰国一世が老後に入り、老人ホームの入所が増える中、言葉の問題や食事の問題などもあり、帰国者専用のデイケア施設が強く求められている。高杉さんは孫にも恵まれ、やっとな安定した生活になったが、多くの帰国者はまだまだ不安定な状態である。

戦後七十四年たった今でも、いろいろな爪痕が残って苦しんでいる人たちがいることを知りました。どうか、幸せな老後が過ごせるよう、心より願っています。二胡演奏の少しさみしい音色が心に響きました。「の感想に我々にもなにかできる」とはなにかとの思いを強くした。

最後に二胡で「里の秋」や「ふるさと」を演奏し、高杉さんの思いが伝わった。この講座は、9月26日に開かれ、公民館の職員を含めて26人が参加しました。

事件(日中全面戦争の発火点)の日として、中国各地で記念行事が行われる日である。

第二点は、戦争体験の継承は、被害と加害の両面から捉える必要がある。中国残留孤児は、ソ連軍の侵攻と国の兼民政策により悲惨な逃避行を強いられた、被害者である。一方で満蒙開拓団は、関東軍の力を背景に中国人を土地から追い出して開拓地として、反抗するものは軍の力で弾圧し、「満州国」を守り発展させるというもので、まさに侵略と植民地政策の一翼を担っていた。中国の人々からみれば、加害者である。

最後に二つのおねがいをしました。一つは、厚生労働大臣への要望書の「老人ホーム・デイケア施設」の項に書かれている「なお、帰国者専用のデイケア施設」を二世や「残留孤児」が民間ベースで立ち上げようという働きも各地で始まっています。国に、こうした活動に対する支援(物件探しや経済的支援)をしてほしいという切実な声があります。ぜひご支援ください。」を紹介しました。そのうえで岡山市でも、残留婦人の三世が自分で施設を作りたいと頑張っていますので、協力してほしいと訴えました。

参与連帯を訪問して

9月25日から4日間、岡山AALAのメンバー10人で韓国の市民団体参与連帯をおとすれ懇談をした。対応は金英丸事務局員がしてくださった。この人は2002年〜2006年まで高知県の平和資料館・草の家の事務局長を務めた人で日本語がたんのうだった。この団体は2016年から始まった朴槿恵政権を退陣させた「ろうそく集会」の主催者です。いま韓国で問題になっている曹法相の任命では検察が巨大な権限を持っていることを改めるため、文在寅大統領が決断したものです。日本の報道では問題のある法相を大統領が無理やり登用しようとしています。この説明を聞いてすっきりしました。

9月28日には曹法相を支持するデモが行われ主催者発表で、80万人が参加したそうです。日本のデモでは警官隊が参加者を「人」呼ばわりしたり乱暴な対応をしています。韓国では警官隊がデモ参加者に拍手を送るそうです。

河井伸士

9・18柳条湖事件88周年街頭宣伝

日中友好協会 倉敷支部

今から88年前の1931年9月18日、中国瀋陽で日本軍が鉄道爆破事件をおこし、中国側の仕業とでっち上げ満州国を作りあげ、第二次世界大戦へとつづく柳条湖事件の起こった日です、日中友好協会倉敷支部は役員など6人が参加して倉敷駅で宣伝行動を行いました。日本を再び戦争をする国にさせないよう、平和憲法を守りましょうと訴え、チラシを配布しました。

犬飼



日本母親大会 IN静岡 2019年8月24日

分科会に参加して

報告 稲葉泰子

「子どものもんだい・教育のもんだいー子どもに笑顔と希望をー」

(ネット社会に生きる子どもたちーインターネット・SNS・スマホの功罪)

助言者 長谷川友彦氏 近江兄弟社高等学校教諭

8月24日、分科会のはじまる一時間程前にまず、倉敷民商弾圧事件で裁判を闘っている禰屋まち子さんと一緒に、会場のグランシップに向かつて来られている方々に、裁判の無実を訴えるチラシや署名用紙を持って協力の宣伝をしました。集団で来られている人たちに声をかけながら

チラシを渡すと、あの民商事件ね、と言って積極的に応じてくださいました。さすが、母親大会だと、実感することができました。

第8分科会の参加者は子育て、孫育て中の方や、教員、退職教員の方が多いと、質問や発言、感想等を聞

いて思いました。私はどちらかというと、第三者的な立場、興味のある、ということ、参加した一人でした。

終わってみると、なるほどと考えさせられることが多く、実りのある分科会、納得がいきました。助言者の長谷川先生は、インターネット社会で、多くの事件があるが、その根底にあるものは何だろうと問題提起をされました。スマホで繋がる子どもたちは、ネット炎上事件の加害者にも被害者にもなっている。一度発信された情報はいつまでも残り続ける。短時間に世界中に伝達してしまう。等々、恐ろしさがある。その中で子どもたちの置かれている状況は、生きている世界が狭い、高速道路に乗せられているよう、な感覚になっている。一人ひとりの人間が大切にされない社会になっている。

インターネット上で起きている問題は、ネットが問題なのではなく、社会やその根底にある政治の問題として捉えなければ本質を失う。子どもたちの抱えている思いに寄り添うことが大事と言われました。今、必要

なことは、ありのままの貴方でいいんだという自己肯定感を育むこと、自分が大切にされている、実感をもてることをめざしていこう。対処療法に追われるのではなく、車の両輪として、捉えていこう。」と参加者を励まされました。ここで、何か、範ちゅう以外にあるものとして捉えていた自分に気づき、自己肯定感の育みが人を成長させていくことで、ネットに惑わされない確かなことなんだと、納得することができました。その上で、インターネットは、今までにもまして、生活を変えてくれる高度な質に変えることができる物。また、民主主義を成熟させてくれるものという話をされました。危険さを取り越えて情報技術を使えば、社会に活かすことができる。4項目の申し合わせ事項に、利潤第一主義を乗り越えて多様で民主的な社会を実現しようということになりました。

つまり、すぐれたメディアであるインターネットを積極的に活用し社会にどう活かせるかを考えようと、発展的にまとめられました。長谷川先生のとめを聞きながら、とても私が実感できるには、ちよつと時間がかかると思いました。

第7回中国百科検定

理解は絆を強くする」

第7回中国百科検定の受験者の受付が始まっています。

実施日は、12月8日(日)場所は岡山国際交流センターで実施いたします。

今回は大学や高校にも呼び掛けて取り組みを強めています。日中友好協会の会員・準会員の方々にもぜひ受験していただきたいと思っております。どなたでも気軽に受験していただければ、初級からのコースもあります。

第8回中国百科検定は来年の3月20日(金)に実施されます。

皆さんふるってチャレンジしてみましよう！

次回の新聞発送作業は10月21日(月)午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

川林田田内
小小真曾竹

